

中学校第3学年1組 学級活動授業案

平成24年11月22日

場所 家庭科室

授業者 力久 茂昭

【キーワード】	生徒主体の学級活動	自律と共同	異学年交流
---------	-----------	-------	-------

1 題材名「後輩に継承していきたい附中の良さ、ほこり」

生徒を主体とした学校行事や生徒会活動、学級活動を振り返り、活動のコツを後輩に伝えるためにまとめよう。

2 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

- ① 学校行事や生徒会活動、学級活動に対する自分の取り組みを振り返り、よりよく活動するための方法を積極的に考えることができる。
- ② 「後輩に継承したい附中の良さ、ほこり」をつくりあげていくことで、学校をよりよくしていこうとする態度を養っている。

(2) 題材の評価規準

- ア 学級や学校の活動をより良くするための方法について関心を持ち、他の生徒と共同して話し合い活動に参加し、自主的、自律的に活動しようとしている。【**集団活動や生活への関心・意欲・態度**】
- イ これまでの自分の学級や学校の活動を振り返り、より良く活動に必要な要素を、根拠や理由を示して提案している。【**集団や社会の一員としての思考・判断・実践**】
- ウ 後輩に継承したい附中の良さ、ほこりをまとめることの意義や意見をまとめる話し合い活動の仕方を理解している。【**集団活動や生活についての知識・理解**】

3 生徒の実態

本学級の生徒は、学年当初からこれまでに6回「生徒主体の学級活動」に取り組んできている。具体的には、「学級目標を決めよう」、「大運動会を成功させよう」、「ボランティア活動について考えよう」などである。授業を担当する班は、担任と授業目標や授業方法を考え、学級に伝えたいこと、考えてほしいことを練り上げながら準備して授業実践を行っている。また授業を受ける側の生徒は、その提案や意見の投げかけを受け止めて討議に参加している。時折、人の意見を受け入れず、自分の意見ばかりを主張するような個人プレー型の生徒も見られるが、ほとんどの生徒は自分たちで目標を決めて、共同しながら取り組んでいくことができるチーム型に属している。それは、大運動会や合唱コンクールへの生徒主体の取り組みの中でみとることができた。しかしながら、生徒のモチベーションが上がらないと、その集団が慣れ合い型へと移行する傾向があり、生徒一人一人が活躍できる場の設定や生徒同士の交流をすることで、生徒の意欲を高め、チーム型の集団へと導いていきたい。

4 内容

次期生徒会長選挙を間近に控え、部活動だけではなく、学校行事や生徒会活動の主な役割は2年生へと移行する時期である。本学級の生徒は、これまでに学級総務、生徒会役員、各種学校行事の実行委員、選挙管理委員、生徒総会議長などさまざまなリーダー的な役割を経験し、下級生よりも生徒主体の学級活動に対して豊富な経験や知識を持っている。そこで、この知識や経験を下級生が学級活動や生徒会活動、学校行事に対して抱えている課題や疑問についていっしょに考え、答える形で活用できればと思い「後輩に継承していきたい附中の良さ、ほこり」～生徒を主体とした学校行事や生徒会活動、学級活動を振り返り、活動のコツを後輩に伝えるためにまとめよう～という題材を設定した。まずは、1、2年生全クラスへのアンケート実施により、下級生が抱えている課題や疑問について実態把握を行い、交流会で意見交換することで、本当に必要とされているものに迫らせる。

この活動を通して、自らの活動を振り返ることで自己存在感や自己有用感を高め、これからもこの良き伝統を守ろう、守ってもらいたいという積極的な態度を養っていききたい。

5 方法

(1) 言語活動

- ① 附中の良さ、ほこりについて多様な視点から考えるために、1, 2年生を交えて話し合いをする。
- ② 各班で話し合った内容を全体で共有するために、根拠や理由を示して説明する。

(2) 生徒主体の学級活動

- ① 担任、担当班で授業の目標を話し合い、担当班で授業案の作成を行う。
- ② 生徒が主体となり授業をつくり、教師は適宜、担当班、各生徒に指導・支援を行う。

6 授業計画（全3時間）

過程	課題と内容 [言語活動]	生徒の支援 教師の指導・支援	目指す生徒の姿と 評価方法
第1次	1 生徒主体の活動の課題、悩みを見つけよう。	1-(1) 活動の目的を説明し、活動に対する見通しをもたせる。 1-(2) 1, 2年生にとったアンケートの結果を提示し、学級全体で結果についての気付きや疑問点を班で話し合い、全体で発表を行う。 1-(3) 課題や悩みを見つけ、自分なりの考えをワークシートにまとめさせる。	ア 活動に関心をもちお互いに協力しながら自主的、自律的に話し合いを進めようとする。(観察)
第2次	2 1, 2年生を交えて交流会をしよう。[②話し合う][①説明する]	2-(1) 1, 2年生(総務)をゲストとして、各班の話し合いに参加させ、後輩の視点からみた課題も取り入れながら話し合いを進める。 2-(2) 各班からでた課題への改善点やアドバイスをまとめさせる。	イ 課題の対処の方法について考え、理由を示して意見を述べている。(観察)
第3次	3 「後輩に継承したい附中の良さ、ほこり」を完成させよう。	3 前時の応用紙をもとに、カテゴリー別(生徒学活、生徒会、実行委員会)にポイントをまとめ、完成させる。	ウ 話し合いでまとめ、後輩に継承するおとの意義について理解している。(観察)

7 本時の授業

(1) 生徒が設定した本時のねらい

交流会で、下級生の課題や悩みを聞き、アドバイスを考える。

(2) 本時に期待する生徒の学び

- ① 一人ひとりが、積極的に1, 2年生に関わっている。
- ② 授業の中で、お互いの考えや良さを認め合うことができている。

(3) 本時の授業過程【全3時間 本時2/3】

過程	学習活動と内容 [言語活動]	形態	1~7 生徒の支援 ○教師の指導・支援	目指す生徒の姿と 評価方法
導入	1 本時の説明をする。	斉	1 本時の主旨や授業の流れを説明することで見通しをもたせる。	

			交流会で、下級生の課題や悩みを聞き、アドバイスを考える。	
導入	<p>2 1, 2年生の紹介を行い, 各班に参加させる。</p> <p>・班編成は6班。1班当たり3年生5~6名, 1, 2年生各1名7~8人編成とする。</p>	G	<p>2 各班の司会者が1, 2年生を自分たちの班に連れていき, 全員の自己紹介を行わせ, 話し合いをしやすい和やかな雰囲気をつくらせる。</p> <p>○ 話し合いでは, どんな意見も否定せずきちんと聞くように促す。</p>	
展開	<p>3 話し合い活動のまとめ方を説明する。</p> <p>4 班で, 1, 2年生の生徒主体の活動の課題, 悩みの解決方法について話し合いを行う。</p> <p>【②話し合う】</p> <p>・1, 2年生は事前に課題, 悩みについて記入した付箋を出し, 班全員でカテゴリ別に分類しながら広用紙に貼る。</p> <p>・カテゴリ別に課題, 悩みの解決方法を班全員で考え, 後輩へのアドバイスとする。</p> <p>5 話し合いでまとめた内容を班ごとに発表する。【①説明する】</p> <p>・班ごとに広用紙を持ちながら, 話し合った内容を発表する。</p> <p>6 各班から発表された内容で, 質問や補足することについて全体で話し合う。</p>	G G 齊	<p>3 電子黒板で話し合い活動のまとめ方を提示し, 班の司会者に周知徹底をさせる。</p> <p>4-(1) 生徒主体の活動での課題, アドバイスできることを考えさせる。また, じっくり考えることができるよう時間をとるように司会者に伝える。</p> <p>4-(2) 付箋を貼る際, 「生徒学活」, 「生徒会」, 「実行委員会」のカテゴリ別に分けて貼ることを班の司会者に確認させる。また, 司会者がスムーズに話し合いができるように, 班員に声かけをする。</p> <p>5-(1) 発表によって, 全体で話し合いの内容を共有し, 草案につなげさせる。</p> <p>5-(2) 黒板書記は, 発表の終わった広用紙を黒板に掲示する。</p> <p>6 質問された班は回答を考え, 質問に答える。担当班の書記は, 黒板に質問, 回答をまとめ記入する。</p>	<p>イ 課題の対処の方法について考え, 理由を示して意見を述べている。(観察)</p> <p>イ お互いの意見を考えながら, 具体策を提示し, 理由を示して意見を述べている。(観察)</p>
展望	<p>7 本時を振り返る。</p> <p>・担当班より, 本時をまとめる。</p> <p>・担当班への評価とアドバイスを書く。</p> <p>・1, 2年生から感想をもらう。</p> <p>・先生の話</p>	齊 個 齊	<p>7-(1) 広用紙の今回出された案を, 次時でまとめ, 「後輩に継承したい附中のよき, ほこり」としてつくり上げることを伝える。</p> <p>7-(2) 本時のねらいが達成できたかコメントを言う。</p> <p>○ 担当班の活動, フォロアーの活動を肯定的に評価する。</p>	
その後	<p>第3次に向けて, アドバイスシートを見て活動を振り返り, 次時の授業に活かす。</p>		<p>○ 帰りの会などで評価とアドバイスを紹介し, 次時への活動の意欲を高めさせる。</p>	